

ギフチョウ

岡山県：絶滅危惧Ⅰ類

チョウ目

Luehdorfia japonica Leech

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

アゲハチョウ科

選定理由

生息環境の悪化等により近年の衰退が著しい。全国的に採集圧が高く、一部で他地域産の放蝶による生態系への影響が憂慮される。

存続を脅かす要因

業者・マニア採取、道路工事、ダム建設、林相変化、産地局限

分布状況

本州の特産種で秋田県から山口県まで分布し、固有の地理的変異が認められる。県内では中国山地帯の新見市から美作市にかけて局地的に分布しているが、真庭市と鏡野町以外ではほぼ姿を消している。津山市以東の個体群は放蝶によるものとみられる。

生息情報

黒色と黄色の縞模様的小型のアゲハチョウで、後翅肛角部に赤色紋をもつ。年1回、4～5月にかけて出現する。幼虫はウマノズクサ科のミヤコアオイ、ヒメカンアオイ、ウスバサイシン等を食べ、初夏には蛹化してそのまま越冬する。成虫は山頂や尾根に集まる習性があり、スマレ類やヤマザクラ、ミツマタ等に訪花する。

特記事項

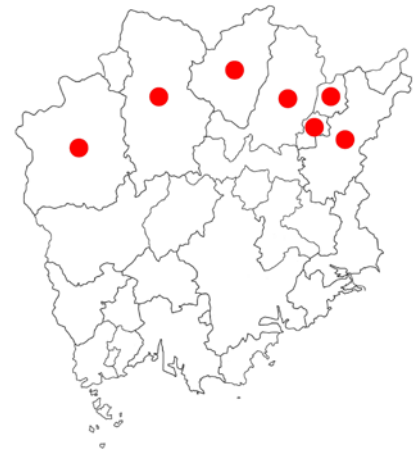
「岡山県文化財保護条例」により、真庭市蒜山の旧川上村一円の発生地が天然記念物に指定されている。

文献番号 40, 60, 83, 101, 219, 222

(中村 具見)



所蔵：中村 具見



ツマグロキチョウ

岡山県：留意

チョウ目

Eurema laeta (Boisduval)

環境省：絶滅危惧Ⅱ類

シロチョウ科

選定理由

全国的に生息地が局地的で、衰退傾向が認められる。

存続を脅かす要因

草地開発、土地造成、河川開発、ゴルフ場

分布状況

本州（東北地方南部以南）、四国、九州（種子島、屋久島含む）に分布しており、本州の北限に近い産地で衰退傾向がみられる。県内では局地的ながらほぼ全域に広く分布しており、現状では特に大きな変化は認められない。

生息情報

普通種のキチョウとよく似ているが、やや小型で後翅裏面に暗色条を表すことで区別できる。季節的変異が顕著で、夏型は小型で翅形は丸みを帯び、翅色は雄が鮮黄色、雌は淡黄色と色彩が異なることで性別の判定は容易である。秋型は夏型よりも大きく、雄・雌ともに鮮黄色で翅形は前翅外縁が直線状になり先端が角張るほか、裏面が褐色を帯びる個体が見られる。6～11月にかけて年4回程度発生し、成虫で越冬する。幼虫の食草はカワラケツメイ（マメ科）。食草の自生する河川の堤防や丈の低い草原等に生息している。夏季には発生地を群棲することが多いが、秋季には分散した個体が各地で見られる。

文献番号 40, 60, 83, 101, 222

(中村 具見)



所蔵：中村 具見

